

# 定例教育委員会会議録

(令和2年11月5日開催)

岡谷市教育委員会

# 定 例 教 育 委 員 会

日 時 令和2年11月5日(木)  
総合教育会議 終了後  
場 所 9階大会議室  
署名委員 藤森委員、小平委員

## 【 次 第 】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. 岡谷市議会12月定例会の議案について【別添資料】(非公開) (スポーツ振興課)
2. いじめ・不登校の状況について【資料No.1】 (教育総務課)

### ○ 報 告

1. 岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について【資料No.2】 (各課)

### ○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】 12月11日(金) 定例教育委員会 9時30分～ 6階 605会議室

## 出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、  
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

## 事務局（説明員）

教育部長 城田 守、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 竹内 良之、  
生涯学習課長 山田 勝由紀、スポーツ振興課長 小河原 義友、子ども総合相談センター長 丸山 和夫、  
子ども教育支援相談員 花岡 ひさ江、教育総務課統括主幹 増沢 洋子、教育総務課統括主幹 小口 明彦、  
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 芳沢 幸祐

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： それではただ今より11月の定例教育委員会を開催いたします。本日の署名委員は藤森委員さんと小平委員さんをお願いをしたいと思います。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

### ○教育長報告

#### 1. 岡谷スタンダードカリキュラムの学びについて

先ほどの総合教育会議のテーマにも関係しますが、岡谷ならではの学びを実践する「岡谷スタンダードカリキュラム」には地域に根付いた様々な学習の素材を用意しています。なかでも蚕糸や製糸の学びを大切にしています。岡谷の小学校は全て蚕を育てており、校内には桑の木があります。伝統となっているこうした学びが更に発展して、本年度の川岸小学校では、学校で育てた蚕が繭となり、シルクとなって、マスクなどを作るところまでを総合的学習の時間で学んで、蚕糸博物館のフリーマーケットで自分たちが販売する取り組みまでにつながっています。

また、岡谷田中小学校では、自分たちが育てた繭で卒業式に着けるコサージュを制作する活動や製糸に関する学びを継続しており、その取り組みが認められ、本年度、大日本蚕糸会から表彰いただくことになり、その報告会が11月10日（火）に予定されています。この表彰は一昨年神明小学校に続いての表彰となります。それぞれの学校で工夫しながら岡谷スタンダードカリキュラムを実践しており、こうした地盤を基に、本日、話題になった岡谷シルクが更に発展していくように市教委としても連携していきたいと考えております。

#### 2. 岡谷東部中学校の大規模改修について

本年度から管理教室棟の大規模改修工事が始まっておりますが、ここで工事期間中の仮設校舎が完成し、建物の引き取りと引っ越し作業が行われたところです。来年11月までの工事を予定しておりますが、その間の学び舎として十分に耐えられる建物ができ、関係の皆様にご感謝しております。

#### 3. 第32回「としょかん子ども読書まつり」について

例年、2日間の日程で開催をしておりましたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から規模を縮小し、11月1日（日）に、市立岡谷図書館の会議室にて実施いたしました。当日は、新たな取り組みとして、会場に「えほんコーナー」、「のりものコーナー」、「どうぶついっぱいコーナー」など8つのコーナー別に児童書を並べて、午前10時から午後3時まで「こども図書館」として開放し、その場で貸出を行いました。

また、午後1時から3時までは、同じ会場でボランティア6団体による、人形劇、語り、本の読み聞かせなどを行っていただきました。今年はボランティア団体の催し物において、補正予算で整備しましたポータブル拡声器を使用し、また、観客席を絨毯から椅子に換えるなど、感染予防に配慮しての実施となり、例年に比べて参加人数は少なかったものの、子どもたちにとって、本や人形劇、読み聞かせなどに親しむ良い機会になったと思っております。

#### 4. 令和2年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）冬季大会について

来年の1月21日（木）から25日（月）にかけて、長野県内を会場に全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会が開催されます。アイスホッケー競技につきましては、軽井沢町と岡谷市で開催されることになっており、昨日の長野県実行委員会の第4回常任委員会において、開催の内容等について承認されました。岡谷市を会場とするアイスホッケー競技は平成22年以来、11年振りとなりますが、やまびこ

スケートの森アイスアリーナを会場として、1月21日（木）から23日（土）までの3日間、トーナメント方式により3回戦までの計10試合が行われます。準決勝と決勝につきましては、軽井沢会場にて行われます。

高校生活協力の協力として、岡谷工業高校が製作したカウントダウンボードが11月16日（月）からJR岡谷駅に設置されます。また、大会期間中は、岡谷南、岡谷東、諏訪実業、東海大諏訪の高校生が運営面で協力してくれることになっております。

新型コロナウイルス対策については、主催者側も大変気を遣いながら準備を進めており、今回の大会は、各校登録選手1名につき最大2名まで入場可能として、一般の入場を行わないことになりました。新型コロナウイルス対策のため、市民が観戦することができず大変残念ではありますが、岡谷市で開催される大会でありますので、陰ながら応援いただければと思います。特に、今年の夏のインターハイは中止となりましたので、選手の皆さんは開催できる喜びをかみしめ、今後の高校生の夢をつなぐためにも、素晴らしい熱戦が繰り広げられることを期待しております。

私からは以上であります。ただ今、ご報告した件について、ご質問等ございましたらお願いいたします。

## ○議 題

### 1. 岡谷市議会12月定例会の議案について（スポーツ振興課）

岩本教育長： 議題1につきましては、非公開でございますので、最後に行いたいと思います。

### 2. いじめ・不登校の状況について（教育総務課）

岩本教育長： 議題2について、事務局より説明をお願いします。

<事務局からいじめ・不登校の状況について説明。>

岩本教育長： それでは委員さんから、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

太田委員： ご報告ありがとうございます。岡谷市では児童・生徒、みんなでいじめをなくそうという取り組みを生徒中心になって進めていて、とても良い活動だと思いますし、ご報告の中で発見のきっかけの中で、周囲からというものがあるのは非常に心強いというお話がありましたが、パーセンテージとしてはどのぐらいになるのか教えていただけたらと思います。

事務局： 件数としてはだいたい20件前後となっておりますので、多くはないのですけれども、かなりの件数ではあると思います。

太田委員： 最近、認知件数が増えている大きな要因として、積極的にいじめの芽が小さいうちから摘んでいまいしょうということなので、件数自体が増えることは決して一概に悪いこととは言えないと認識していますけれども、特に私が気になるのが、生徒の保護者さんからの発見が割合として多いというのが、やっぱり気になりますので、できれば本当に岡谷市が取り組んでいる子供たちの取り組みの中で、周りの子供たちが自ら、これはやっぱりまずいんじゃないの、というような割合が増えてくると、もしかしたら、もっといろんな形で改善が進むのではないかなと個人的には思いますので、この辺の周囲から、友達からというようなところが、どのように増えていくのかなというのをちょっと注目しながら見ていきたいなと思いました。

草間職務代理者： 今年、新型コロナウイルスの影響で臨時休校ということもあったのですが、3か月でいじめの認知件数が25人だとすると、今後の推移を考えると3倍すれば、かなりの数になると思うのですけれども、新型コロナウイルスによる臨時休校の、いじめに関する子供たちへの影響は休んだお陰でいじめが減るとか、そういうような何かそういう因果関係はあるのですか。

事務局： 前年度は新学期が始まったばかりの4月と5月は、いじめ認知の件数は少なかったです。2か月経って学校に慣れた6月と7月に報告の件数が増えたということがありましたので、今年度は6月が新学期というような感じになっているので、ちょっと環境が変わっている今年状況では、例年と少し状況が違って、この先ちょっとどうなるか、まだ読めないところがありますので注視していきたいと思います。

藤森委員： 先ほどのご報告の中で、長野県は全国的に見ても不登校が多いということで、一概に理由は特定できないと思いますが、教育機会確保法について、もう少し詳しく教えていただけたらと思います。

事務局： 教育機会確保法ですけれども、学校に行くことが全てではないということで、いろんな場面

での支援の仕方があるという中では、広く捉えられている部分があります。その中では今までは不登校が問題行動として扱われていましたが、休むことによって、本人の休養であったりとか、自分が進む道の見直しであったりとか、そういった期間として捉えようという趣旨が示されています。そういったことが徐々にご家庭にも浸透してきたのかなと思います。

高木委員： 不登校の児童生徒の中の兄弟関係がどのくらいあるのかということと、何年も不登校ではなくて、新たに不登校になった子供たちの割合を教えてください。

事務局： 兄弟が不登校で家にいると、弟妹が「お兄ちゃん（お姉ちゃん）が学校に行っていないのになんで私は行くの？」など、疑問を持つケースもあります。ですから兄弟関係による不登校の因果関係も多少はあるのかなと思います。令和元年度の状況となりますが、30日以上長期欠席を不登校として捉えますので、資料の下の方に記載してあるとおり、前年度は30日未満で、元年度は30日以上になった児童生徒が小中学校合わせて33名となっています。

小平委員： いじめの問題で件数が増えていることに関しては、本当に私もより細かく対応して下さっているというか、そういう訴えがあるっていうことが、逆に良い事だなと感じているのですが、やはり、先ほどおっしゃられた個々でそれぞれの内容が違うということで、どういう対応であるのだろうと感じています。それで親御さんの苦勞もすごく感じます。でも、その中で不登校に関しては前向きに捉えようという、今の時代の多様性で、自分の見直しの機会として捉えるっていうのは、とても受け止め方として良いのではないかなと思います。あまり過敏に扱うというよりは良いのかなと思います。いじめの件なのですが、「いじめ事案がすべて解消済である」と書かれているのですが、どのような形で解消していく流れがあるか、どのような事例があったか、学校の先生の段階で解決したのか、子ども総合相談センターまでその事案が持ち込まれて解消したのか、どのような現状なのでしょう。

事務局： 【以下、個別事案について紹介。学校の方で解消した事案として、先生がいじめの加害者、被害者の両者の話を丁寧に聴いて、内面から聴こうとする関わり方により、解決が図られた。個人の特定を避けるため、詳細省略。】

小平委員： 今の先生方しっかり見てくださっているなっていうのを感じます。先生も配慮をされて加害者と被害者、両方から、きちんと話を聴いてっていうことですね。

事務局： 【以下、個別事案について紹介。センターの方で解消した事案として、いじめ相談のあった保護者と一緒に学校へ同行して、いじめの解決が図られた。個人の特定を避けるため、詳細省略。】

小平委員： その人その人で相談しやすい人が違うということもあると思います。内容も複雑化しているような気がします。いろんなところに相談できる、いろいろな窓口があってもいいのかなと思います。

藤森委員： 不登校の件で、不登校の定義ということでいくと、30日以上長期欠席をされたお子さんということで、定義があって、ここに統計の数字が上がってきていると思うのですが、実際には、30日は越えていないけれどもなかなかやっぱちょっと学校に行くのが難しいというようなお子さんっていうのも、統計の数字が無ければ結構ですけども、イメージとしては、ここに数字として出てきているのは、そういう30日以上休まれているお子さんだと思いますが、実際には、そんなに多くないとか、ちょっとその辺のイメージ的なお話でもいいのですが、ちょっと参考にお聞かせいただければと思います。

事務局： いわゆる、登校渋りというか、特別な病的な理由などで登校できないなどではなく、理由を聴いても、なんとなく…というように、本人もすぐに答えが出ないような状況もありますけれども、統計としてセンターでは、10日迄、20日迄そういった人数も統計を取っております。場合によっては学校から登校渋りの兆候が見られる事案の相談もあります。

藤森委員： 不登校という形で、定義上、不登校とされたお子さんいれば、結構色々なパターンもあるので、そういったお子さんに対するケアっていうのも、実際には、ここに出ている数字以上に大変じゃないかなと推察しますので、本当にご苦勞なことではあると思うのですが、そういったところも含めたケアといいますか、対応をよろしく願いいたします。

草間職務代理者： 不登校の大きな原因に、いじめが大きく関係しているのかお聴きたいのと、岡谷市に小学校7校中学4校あるわけですが、平均的に不登校があるのか、特定の学校に集中しているのかお聴きたいです。

事務局： いじめが原因で不登校になるお子さんというのは、なくはないですけれども、非常に少ないと思います。それから、学校ごとに差があるかということですが、児童・生徒数によってその分母が異なるため、パーセンテージが違いますので、若干、件数が多いと思われる学校は確かにありますけれども、それはやっぱり児童生徒数が多い学校だと思います。比率にすれば、僅かに多いかなという程度です。

岩本教育長： いじめも不登校についても、学校現場では非常に大きな課題として受けとめて、本当に日夜、頑張ってくださいとお願いしております。教育委員会としても応援をしながらやっているわけですが、なんとと言っても早期発見・早期解決、そして予防策を講ずる。この三つを柱にして、対応をしています。私が子供たちの様子を見ていて、最後の予防策の中で子供たちに最近ちょっと欠けていると思うのは、人と上手につき合っていく、折り合いをつけながら、一緒に仲良く生活していくという力が、若干落ちているのかなということを非常に危惧しています。それからもう一つは、よく言われるのですが、自己肯定感がどうしても持てない。そういった状況もちょっと気になっています。やはりその二つですね。何とか岡谷市では、子供たちそのものの元々の力としてつけてあげたいということで、SSST、スクールソーシャルスキルトレーニングというのを取り入れて、信大の高橋史先生を講師にお招きして数年来やっております。明日、講演会も予定して先生方にまた学んでいただく機会を作っています。子供たちの付け焼刃の対応策ではなくて、その子供の力っていうものを本気で考えていかないと、もう後から後から数は増えてきてしまうのではないかなと、ちょっと心配しております。それからもう一つ、SOSの出し方に関する教育事業もやっています。困ったり苦しんだり、そういう思いがあった時には、遠慮なくSOSを出して自分の思いを話せる。そういったことも非常に大きな力になるのではないかなと思っております。それも岡谷市では大事に取り入れて、教育を進めているところであります。いずれにしても、先生方と一緒にになって一人一人の子供に温かな目を注ぎながら、いじめに対応していきたいと思っております。丸山先生、花岡先生、何か一言ずつお願いします。

事務局(丸山)： 今、教育長の方で申し上げたとおり、実はこの会議の前に岡谷北部中学校でSOSの出し方授業に参加をしてきたのですが、非常に子供たちが前向きに授業を受けていました。その中で、先生たちが寸劇をして笑いを生かしながら、この子供たちが非常に困った時に1人で悩むのではなくて、保護者にもSOSが言えるのは良い親子関係ができているからだと思いますし、そういうSOSの出し方が、子供たちの中に根付いてきているかなと感じています。それから、不登校についてですが、これまで考え方の中では、登校することが第一、登校しなければ駄目だ。というような考え方の中で、適応指導というような言い方がされていたのですが、そうではなくて先ほどの教育機会確保法の中で考え方が変わってきて、今は自立支援というものになってきています。

事務局(花岡)： 先ほど、周りで見ているお子さんの方から、いじめを発見して先生にお伝えする。そういう力がついてくると良いというお話をいただきましたが、最近、とても良いなと思っているのが、例えば先生と小学生だったら日記という形とか、それから中学生なら生活記録というものがあるので、そういったところに自分の気持ちを書けるお子さんが出てきました。それを読んだ先生が、本当にそのお子さんとしっかりと向き合って、そして、話を聴いてその子の切なさや悲しさや、そういったものが分かったうえで、いじめをした相手のお子さんに、こういうふうにいるけどどうなのと、先生が話し掛けて、そして、ただごめんなさい、握手しよう。というような解決ではなくて、本当にとことんお互いの気持ちを言い合って、そして、やっぱりいけなかったとか、そういう気づきで解決をしていこう。ということが起こってきて、とてもありがたいなと思っております。そのような先生と子供の関係、それからご家庭で、保護者の方に、自分はいじめられて悲しい。ということも言えることも、とても素晴らしいことですし、それをまた自分が悩んでいることを先生に言えるという、先生と児童生徒の関係が岡谷の学校の中で、できているということはありがたいことだと思っております。

岩本教育長： ありがとうございます。それではこの件についてはまた教育委員さんともしっかりといろいろな話をさせていただきながら、みんなで知恵を出し合っていく必要があると思っております。それでは議題2につきましては、以上とさせていただきます。次に報告事項に入ります。

## ○報 告

### 1. 岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について (各課)

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局から岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について説明。>

岩本教育長： ただ今の内容について、質問や意見はありますか。無いようでしたら、報告事項は以上となります。次にその他ということで、事務局からお願いします。

## ○その他

・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

・その他

岩本教育長： そのほか教育委員さんの方からなにかあれば、お願いいたします。  
ほかに無いようでしたら、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日確認>

岩本教育長： それでは議題1に戻りたいと思います。非公開の議題となりますので傍聴人につきましては、申し訳ありませんが退席をお願いいたします。

## ○議 題

### 1. 岡谷市議会12月定例会の議案について (スポーツ振興課)

岩本教育長： それでは、議題1につきまして、事務局より説明をお願いします。

<事務局から岡谷市議会12月定例会の議案について説明し、承認される。>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、11月の定例教育委員会を終了とします。

午後4時50分終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 2年12月11日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

藤森 一彦

署 名 委 員

小平 陽子

調 製 職 員

城田 守